

授業でも！

つかえる

ちゃぐりん

VOL.70



◇記事名:『ちゃぐりん』2019年2月号
「あったかドキュメント人」P131

◇対象:社会科(5年生)、理科(6年生)、道徳(5、6年生)

文・藤本勇二(武庫川女子大学 専任講師)

子どもたちにとって、魅力があるのは食や農に係る野菜や果物などのモノだけではなく、そうしたモノと係る人にも大きな魅力があります。「あったかドキュメント人」では、できるキャリア教育をさらに深める学習のアイデアが含まれています。

1:「ムシキングのひみつ」:(5~6年、道徳「社会参画」「自然愛護」)

農家はどんなことを工夫したり、苦労したりしているのかな、と聞くところから始めます。子どもたちは、「たくさん収穫できるように頑張っている、おいしい野菜を作ろうと努力している」などと発言するでしょう。次に、働くことのやりがいについて話し合います。それから『ちゃぐりん』の記事を読み進め、「地域全体の環境を守ることが大切だと考えるようになった」ということに着目して、どうしてそんな風に考えるようになったのかを話し合うといいでしょう。また、「害虫がいて益虫もいるというバランスが、大事なんです」「害虫と上手に付き合う」という小川さんの自然の見方・考え方に着目すると、自然愛護「(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。」の項目を学ぶこともできます。

2:「天敵昆虫」:(6年生、理科「ヒトと環境」)

ここでは生物と環境のかかわりについて考え、食べる食べられるといった生物同士のつながりについて理解を図っていくことができる内容です。生物の食べる食べられる関係を調べた活動の後に、その関係を生かしている例に目を向けるようにします。記事を読んだ後、ビニールハウスなどで栽培される野菜では、アブラムシ、ハダニなどの発生が問題になっていること、これらの害虫に対しては、たとえば肉食性のカメムシ類が天敵として活躍している例を紹介します。害虫を殺す天敵は、殺虫剤の代わりになることから生物農薬と呼ばれており、天敵がうまく働けば、殺虫剤の散布回数を大幅に減らすことができるなど、作業の軽減にもつながり、食べる食べられるといった生物同士のつながりを上手く生かしていることに学ぶことができます。

3:ハチと受粉:(5年生、社会科「食糧生産」)

記事を読んだ後、ミツバチが使われている例を調べます。イチゴやナス、メロン、ナシ、カキ等の授粉にセイヨウミツバチが使われていることが分かるでしょう。私たちが毎日食べている野菜や果物の多くは、ミツバチの授粉のおかげで実ります。「世界の食糧の9割をまかなう100種類の作物のうち、70種以上はミツバチが授粉を媒介している」という報告もあります(2011年・国連環境計画報告書)。



JAグループの食農教育を
すすめる子ども雑誌

ちゃぐりん

Child Agriculture Green

子どもたちに伝えたい!

2019年3月号
おすすめ記事

左依先生のサイエンスクッキング

掲載ページ: 19~21P



為後左依先生のサイエンスクッキング。春キャベツが美味しい季節がやってきました。1年中売られているキャベツでも、収穫する時期によって見た目や味に違いがあります。キャベツの栄養と料理について楽しく紹介します。

くるくる ロールごはん

掲載ページ: 22~25P



春の遠足やピクニックにも持っていける、サランラップを使って簡単にできるロールごはんの作り方を紹介します。巻き方のコツを写真で分かりやすく掲載しているので、自分の好きな具材を入れてカラフルなロールご飯を作ってみましょう。

アッコさんの台所

掲載ページ: 44~45P



今月はふんわりとした卵に甘酢ダレをたっぷりとかけた、簡単カニ玉どんの作り方を紹介します。空気を含ませながら作ることで、ふんわりとしたカニ玉が作れます。作り方のコツを見ながらカニカマをふんだんに入れて、とろとろふわふわのカニ玉どんを作ってみましょう。

ホットケーキミックスでいつでもおやつ

掲載ページ: 46~47P



第11回を迎える連載企画、今回はおしゃれな「ピザ風フォカッチャ」の作り方です。ホットケーキミックスにプレーンヨーグルトを入れてピザ生地を作ったら、お好みの具材をのせて焼きます。

中はふわふわ、外はサクサクなイタリアパンが手軽に楽しめます。